

貿易振興組織の強化・拡大

重要港湾境港は、当圏域共通の財産であります。周辺自治体に「境港は自分たちの港」としての認識をより深めていただくとともに、境港貿易振興会の組織の強化・拡大に努め、圏域一体となった利用促進体制によって、境港の能力がより一層発揮できるように努めてまいります。

また、環日本海経済活動促進協議会との連携を図りながら、ビジネスチャンスの創出や企業の海外展開の支援に取り組んでまいります。

高速道路網等の整備促進

境港や米子空港などの社会基盤のより広範な活用を可能にするには、道路交通網が不可欠です。

特に、国道431号の渋滞による物流機能低下を懸念するところがありますが、この解消のための米子インターチェンジから米子北インターチェンジまでの高規格幹線道路の整備をはじめ、山陰自動車道、中国横断自動車道尾道松江線、米子自動車道の四車線化などの高速道路の整備、また、中海圏域の活発な都市間交流に資する道路交通網

の整備を促進してまいります。

中海圏域での連携事業推進と交流イベント促進

将来の道州制に備えるためには、今からこの圏域が一つのまちとして機能するように一体感を醸成していく必要があります。



中海市長会として行った鳥取県への要望活動

中海市長会では、先月開催したシンポジウムをはじめ、圏域を一体的に結びつける事業を引き続き実施してまいります。従来から民間を中心とした様々な団体

が活動する大山から中海、宍道湖にまたがる当圏域の中で、中海市長会として、情報の共有化や発信、団体間のコーディネートができるよう組織体制を強化しながら、さらなる連携に向けた取り組みを進めてまいります。また、スポーツや文化の分野においても、中海を中心とした各種大会等が実施されており、今後一層多くの圏域住民が交流する多様なイベントの開催を促すことによって、圏域の一体

感を高めてまいります。

西部広域行政をめぐり諸課題の解決

鳥取県西部広域行政管理組合をめぐっては様々な課題がございますが、特に、可燃ごみ処理問題につきましても、私から、それまで進められていた新焼却施設の建設計画を見直して、現有施設の有効活用を問題提起させていただいたところ、米子市におかれまして、米子市クリーセンターの活用に関し地元協議を重ねられた結果、先般、一部の町の可燃ごみに限り暫定的に受け入れることが表明されたところであります。

社会情勢が大きく変化している中、新たな焼却施設建設は、圏域市町村に多大な財政負担を伴うものであり、でき得る限り過大な投資を行わない形で住民ニーズに対応していく必要があります。

組合における諸問題に対しては、西部圏域全体としてよりよい方向に向かうよう、副管理者として他の構成市町村とともに努力してまいります。

また、広域行政に関連して、本市では、米子市から要請のあった大篠津町「旭が丘団地」の下水を、本市下水道センターで受け入れる方針で、現在手続

きを進めているところであります。

このように、圏域共栄の観点から広域的対応が可能な事案については、行政区域にとらわれず連携していくべきものとして、今後とも対応してまいりたいと考えています。

2. 全国ブランドである「さかな」と「鬼太郎」を活かした経済振興

年間150万人もの入込みのある水木しげるロードを活用して、「鬼太郎」に特化した本市のピーアール戦略を進めるとともに、水揚げ日本一の「カニ」など、「さかなのまち境港」を活かし、基幹産業である水産業をはじめ、その他の産業との相乗効果を高めることにより、産業の振興を促進します。

具体的には次のような取り組みを進めます。

境港ブランドの積極的情報発信

水木しげるロードや境漁港の水産物に代表される本市の地域資源を最大限活用するとともに、妖怪にちなんだイベントをはじめ、境港ならではの「海鮮丼」や「マグロ料理」などを通して、全国に向けて「さかなと鬼太郎のまち境港」を積極的に情報発信し、本市の一層の認知度アップを図ってまいります。



新たな魅力の「海鮮丼マップ」

水木しげるロード周辺の環境整備

入込み客が開設以来一千万人を突破した「水木しげるロード」につきましては、訪れる観光客に対する「もてなし」の向上や、繁忙期におけるトイレや駐車場等の受け入れ態勢の充実を図るとともに、ロードを中心とした面的な発展策など、さらなる魅力度アップに向けて模索してまいります。また、ロードと市内の各観光スポットを結び交通ネットワークの構築に取り組む、観光客の利便性の向上を図ります。



H20. 8. 10 水木しげるロード 入込み客数 1000 万人を達成